

信用金庫の新しいビジネスモデル策定（10）

— 金融、保険業向け貸出の推進動向 —

ポイント

- 2022年度末の信用金庫の金融、保険業向け貸出金残高は、前期比9.8%増の2兆8,145億円となり、貸出金残高に占める割合も3.5%に上昇した。
- 金融、保険業向け貸出に取り組む目的は、①貸出金残高の確保、②金利収入の獲得となり、足元では市場運用の一環で取り扱う信用金庫が多いようだ。
- 推進時の検討課題は、①長期的な取組方針の明確化、②リスク管理の徹底などがあり、既に積み上げた残高のコントロールに苦慮する声が聞かれた。
- 研修受講金庫の取組事例を挙げると、市場運用部門が取り扱う信用金庫、地公体向け貸出と合わせて残高を管理する信用金庫があった。

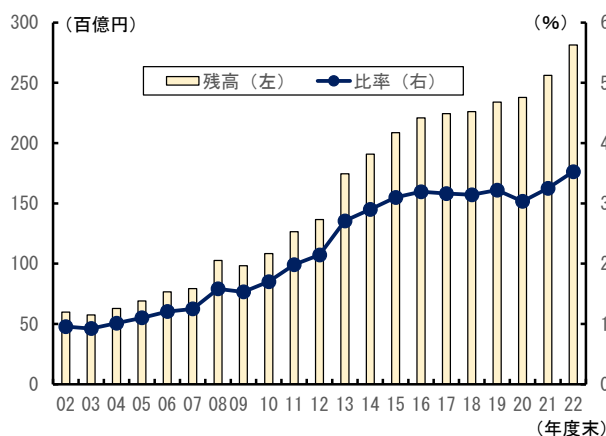
(注) 本稿は、当研究所主催「経営戦略プランニング研修（2023年度）」の講義および意見交換時の内容を中心に作成している。

1. 金融、保険業向け貸出金残高の推移

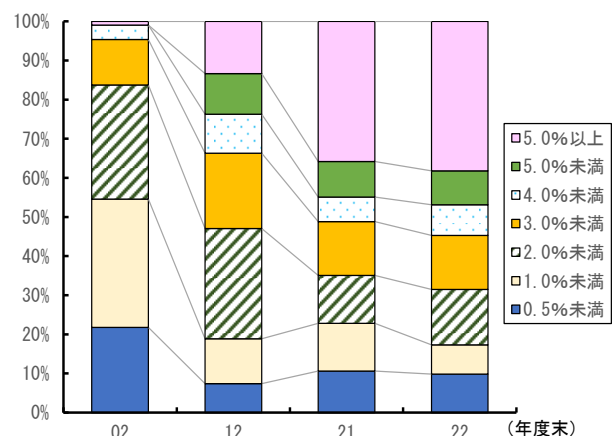
2022年度末の信用金庫の金融、保険業向け貸出金残高は、前期比9.8%、2,534億円増加の2兆8,145億円となり、13年連続で前年度末を上回った（図表1）。貸出金残高に占める比率も3.5%となり、2002年度末（0.9%）から2.5ポイントの上昇がみられる。

2022年度末の信用金庫別の金融、保険業向け貸出比率は、①3%未満が115金庫（構成比45.2%）、②3%以上5%未満が42金庫（同16.5%）、③5%以上は97金庫（同38.1%）となった（図表2）。なお、2022年度末の比率を地区別にみると、北陸の7.4%から南九州の1.4%まで差が広がっている。

（図表1）金融、保険業向け貸出金残高の推移



（図表2）信用金庫別の金融、保険業向け貸出比率（構成比）



（備考）1. 本稿では他業態との合併等を考慮していない。

2. 図表1から3まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 推進の目的

金融、保険業務向け貸出の推進目的は、①貸出金残高の確保、②金利収入の獲得であり、足元の市場金利の上昇などから取扱いに魅力を感じる信用金庫が増えている。基本的には本部の推進部門や市場運用部門が金利条件などを勘案して取扱いの可否を決める貸出で、運用商品に近い位置付けとされる。

3. 推進時の留意点

推進時の検討課題は、①長期的な取組方針の明確化、②リスク管理の徹底などがあり、既に積み上げた残高のコントロールに苦慮する信用金庫が多いようである。また市場金利の情勢によっては繰上げ返済リスクなどが想定されるので、貸出金ポートフォリオの管理などには絶えず注意を払う必要がある。いずれにせよ新たに推進する際は、メリット・デメリットを勘案した慎重な検討が求められる。

4. 研修受講金庫の取組事例

当研修の意見交換時に聴取した研修受講金庫の主なコメントは図表3のとおりである¹。

(図表3) 金融、保険業向け貸出に関する主なコメント

(積極的な意見)

- 当金庫は市場運用の一環で金融、保険業向け貸出に取り組んでいる。貸出金の勘定に入っているが、庫内では運用部門が取り扱う。
- これまで年度末の貸出金残高の未達分をカバーするべく金融、保険業向け貸出に取り組んできたが、足元では金融商品としての魅力が高まっており、取扱目的も見直す考えである。残高・比率ともにもう少し上昇させて良い。
- 地公体向け貸出は金利が低すぎるので、金融、保険業向け貸出で残高を作る考えである。庫内では地公体向け貸出と金融、保険業向け貸出の合算数字にアップパーを設定しており、その範囲内で取り組んでいく。

(消極的な意見)

- 当金庫の金融、保険業向け貸出比率は「既に高い」との認識であり、少しずつでも抑制していきたい。しかしながら一気に減らせないので、(他の)企業向け貸出や個人ローンの積上げ状況を見ながら抑制していく考えである。
- 現在は市場金利が上昇局面なので魅力的だが、仮に金利低下局面に入ったら中途解約などのリスクが残る。その場合、一気に当金庫の貸出金残高が落ちてしまうので、貸出金ポートフォリオ管理などが重要との認識である。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断でお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

¹ 当該コメントは研修受講者の個人的な意見・感想を含むものであり、研修受講金庫の正式なコメントではない。そのため事例の記載にあたっては信用金庫名が特定できないように修正してある(信用金庫名の照会や関連資料の提供依頼にはお応えしていません)。